



CONTENTS

Top Opinion

全体最適の難しさ

未来構想PF 理事・事務局長 大口 豊

1

たすきリレー

山との長い付き合い

JR東日本コンサルタンツ(株) 福島 大造

2

今月の国際比較データ

3

PF書店／私のインフラ巡礼／編集後記

4

Top Opinion

全体最適の難しさ

未来構想PF 理事・事務局長 大口 豊



ダイヤ改正からJR中央線のグリーン車サービスが始まり、ご利用も毎日が増えているようですが、気になるネット報道がありました。曰く「グリーン券無しの乗客が沢山いる」「赤ランプの乗客に下車を強要するオジサンがいる」等ですが、ヘビーユーザーの私の見る限り、殆どのお客様がSuicaでの事前購入を済ませており、たまの赤ランプでも紙の券をお持ちか急ぎで車内料金覚悟等の方で、検札時のトラブルも見た事ありません。「コタツ記事」の典型例と得心した次第です。

閑話休題、SNS等の情報ツールの発達は良いのですが、半面こうしたガセネタやエビデンスの無い情報、言い換えればツールにリテラシーが追いつかない状況が、まちづくりやインフラ整備のコンセンサスづくりにおいても、全体最適と個別の事情や利益との乖離を悪化させていることはないでしょうか。

例えば昨今、北陸新幹線における敦賀以西の整備ルートについて好き勝手な意見を取り上げる報道を散見します。関係法令の理念と手続きに則り、国土の全体最適を見据えた上で所定の手続きを踏んで形成されてきたプロセスを蔑ろにするかのような一部の風潮には、少々危惧を覚えるところです。

私の携わる再生可能エネルギー界でも全体最適と個別の事情の乖離を激しく感じているところです。脱炭素や脱原発も背景に進む再エネ電気の導入ですが、政策的な買電価格が年々引き下げられる一方で、建設費の高騰、建設適地の枯渇に加え、盛土規制法など規制の強化、数々の誤解も含んだ反対運動の頻発等、事業環境は悪化の最中で、連休中に起きた死亡事故の対策も気にかかるところです。将来の希望とされる洋上風力でも、某商社が多額の評価損を計上し事業計画の見直しに入るなど、順調とは言えません。

人口減少や経済力の低下、世界的な自国優先主義等、我が国を取り巻く環境は激変の中にありますが、高いリテラシーを持ったプラットフォームの活動が、未来のまち・交通・鉄道に関するコンセンサスづくりの面からもさらに貢献して行ければと考えています。



私のインフラ巡礼



～泰緬鉄道博物館～

旧日本陸軍が建設した泰緬鉄道の建設状況が展示されているミャンマーにある博物館
(日本コンサルタンツ 松尾 伸之さん)

未来構想PFのホームページ
(HP) をご覧ください。会員はもちろん社会に大きく
開かれた「参加型」HPです。

未来構想PF

検索

で検索してください。

トップページへのリンクは

[こちら](#)



たすきリレー

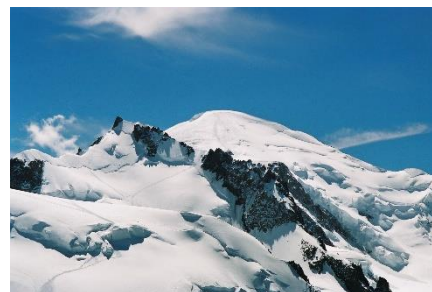
山との長いつきあい

J R東日本コンサルタンツ(株) 福島 大造

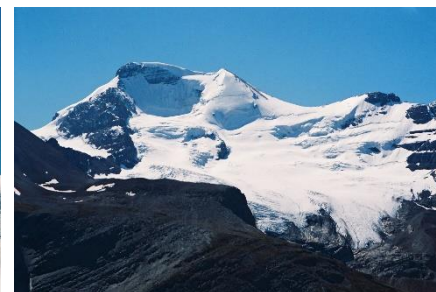
小学生の頃、西宮市の自宅から歩いて行ける「甲山（かぶとやま）」（六甲山系の東側の山）には登っていましたが、本格的には、高1の2月に山岳部員として雪の大菩薩嶺に登ったのが初めてでした。その翌月、雪上訓練で上越の土樽スキー場から尾根に輪かんじきで登って雪洞に泊り、滑落停止・確保訓練を指導してもらうなど、積雪期の山から始めました。学生時代は夏・秋に南アルプス（塩見岳～北岳）、中央アルプス、北アルプス（裏銀座縦走）などへ登りましたが、雪洞泊で行った春の雪上訓練（上越の土樽、平標山、尾瀬至仏山）と年末の八ヶ岳など、積雪期をよく覚えています。当時は装備が重く、行者小屋まで二人で TENT を担いで登った時は、約30キロのキスリングザックを背負って一人で立ち上がれなかったですが、快晴の赤岳山頂で苦労が報われたことをよく覚えています。その頃は、まだ下降器が普及しておらず、ザイルだけで懸垂下降する訓練を学校に近い崖で行い、雪上訓練で滑落停止訓練を嫌になるほど繰り返しましたが、滑落停止を体で覚えたことは実際に滑落したとき役立つことになりました。

国鉄入社後は東一工山岳班、J R東日本では東工所山岳班に所属、四季を問わず日本各地の山に登り、J R東日本山岳会の本社支部幹事、事務局次長、副会長として活動し、未来構想P Tの山本卓朗初代会長とは30年以上一緒に登っています。一緒に登ったうち、3月の仙丈岳、八ヶ岳、5月の八海山、守門山、12月の那須岳など、積雪期の山が印象深いです。

国鉄時代に韓国鉄道庁の招待で、雪岳（ソラク）山と北漢（プカン）山に登りましたが、国鉄末期に計画したカナディアンロッキーは国鉄改革のため実現できず、20年後に再び計画して登ることになりました。J R東日本山岳会として1996年のヒマラヤ以来の2回目となる公式な海外登山隊は、2001年にパリ事務所長として赴任した松本恒和さんから「パリにいる間に山岳会でヨーロッパアルプスへ来てくれ」と言われたのがきっかけでした。2002年にモンブラン・マッターホルンの本格的な登山隊とトレッキング隊を組合せ、いろいろな



モンブラン



アサバスカ



北穂高岳



硫黄岳

人が行けるようにコースを設定し、時期を少しずらしてA隊28名、B隊16名の合計44名でヨーロッパアルプスに行きました。私はA隊隊長として、モンブラン(4,810m)へ登山隊10名で向かい、そのうち9名が登頂しました。ガイドをつけても半分くらいしか登れないそうで、現地ガイドから登頂率が高いと言われました。登山隊とトレッキング隊は同じホテルに宿泊して別々のコースに向かい、ツェルマット・シャモニでは一緒に登頂を祝い、全員がバリ観光、ムーランルージュでの食事を楽しみました。職域山岳会として、本格的な登山を行う隊員以外のいろいろな人が楽しめるような企画にしたことがよかったと考えています。また、海外登山前の訓練でGWの北アルプス（北穂高岳）に林康雄会長と登ったのも貴重な思い出で、林さんのお別れの会には私と一緒に購入したピッケルが飾ってありました。



海外登山は、ヨーロッパアルプス3回、カナディアンロッキー、ヒマラヤトレッキングを経験しました。J R東日本山岳会3回目の公式な海外登山隊であるカナディアンロッキーも登山隊とトレッキング隊を組合せた16名で行いました。J A Lが遅れてバンクーバーでカナダエアへ乗り継ぎ、1日遅れで着いたカルガリー空港には予定通り着いた16人のスーツケースが待っているトラブルから始まりました。気を取り直して翌日からトレッキングを行い、氷河でのガイドとのクレバス脱出訓練と氷河観光に別れて行動した翌日、3時にアサバスカ(3,491m)に向かった登山隊6名をトレッキング隊がトランシーバーで連絡をとりながら反対側の山から見るなど、この時も全員が楽しめる計画としました。

山の楽しみ方は人それぞれで、山頂での達成感、展望、下山後の温泉、懇親などいろいろありますが、仲間（チーム）と一緒に苦労しながら達成することが一番だと思っています。登っていない新たな山で記録を目指す人もいますが、私は山の記録に拘らないので、富士山、八ヶ岳、谷川岳など10回以上登った山が多くあり、同じ山をいろいろな季節に何度も登って楽しんでいます。最近は歩くペースが落ちて重い荷も背負えず、日帰りが多くなりましたが、これからも仲間と一緒に達成感を味わう楽しさを続けたいと思っています。



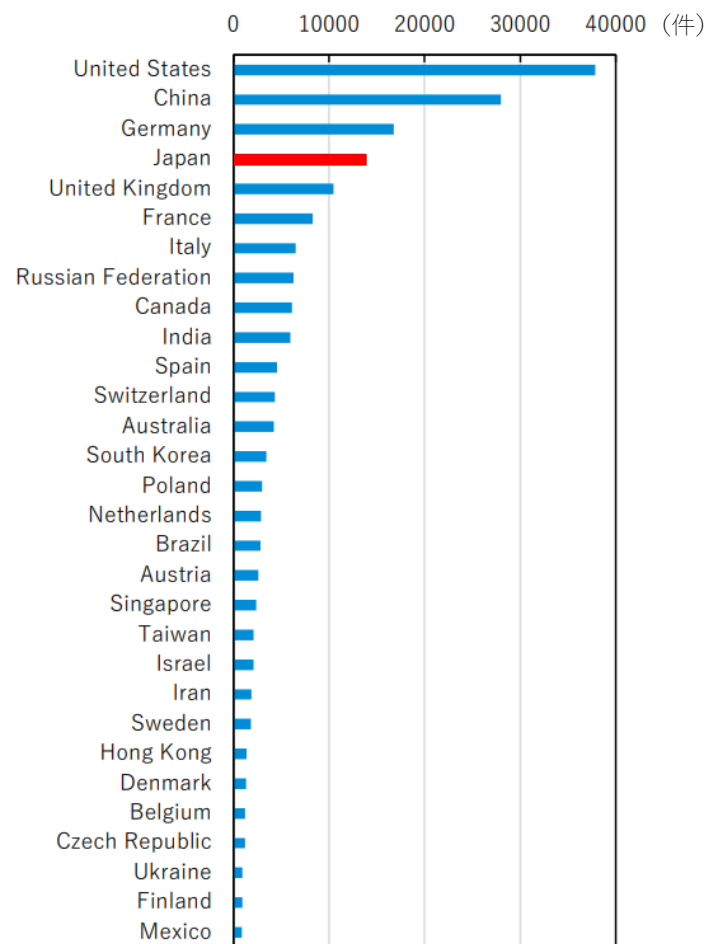
今月の国際比較データ



●量子技術分野における学術文献の国際比較

今月の未来構想P F 書店で紹介した「量子超越」。近年、量子状態を精密制御し、量子もつれや量子干渉などの量子力学特有の性質を計測・通信・情報処理などに活かす「量子技術」の研究開発が世界中で活発化しています。その代表例として、量子センサ、量子通信、量子コンピュータ、量子シミュレータ、量子マテリアルがあります。米国、欧州、中国が量子技術への政府研究開発投資を拡大する中、我が国においても2018年12月に内閣府が「今後イノベーションを進める上で重要な3つの分野」としてAI、バイオに並んで「光・量子」を挙げ、「量子技術イノベーション戦略」も策定されました。基礎研究から社会実装まで様々なレベルでの国際競争が激化しており、我が国において量子技術の研究開発と実用化をどう推進すべきか、総合的に判断す

る岐路に立たされています。そのような中で、今月は量子技術分野の学術文献の国別件数比較を紹介します。首位は米国、2位は中国、3位はドイツ、その次に日本、英国、フランス、イタリアと続きます。今後どこまで件数を伸ばせるか、技術立国の真価が問われます。



(出所) 「論文・特許マップで見る量子技術の国際動向」
(研究開発戦略センター)

図 量子技術分野における各国の学術文献件数



PF 書店



本の題名をクイックすると、出版社の書籍紹介HPにリンクします！

① TODによるサステナブルな田園都市

(東急総合研究所監修 近代科学社)

キーワードはTOD (Transit-Oriented-Development=鉄道をはじめとした公共交通に根差した都市開発やまちづくり)、サステナブル (Sustainable=持続可能)、田園都市。

日本におけるTODの歴史は、英Garden Cityを田園都市として輸入し郊外に住み都心で働き鉄道で通勤するライフスタイルの1.0、郊外に単に住むだけでなく商業をはじめとする機能を導入した2.0、地域コミュニティと連携しエリマネを展開した3.0、ポストコロナ後の生活の変化に伴う都市構造と価値創造へと導く4.0、DX/GX技術の活用で離れた場所同志での繋がりによる交流の広がりやサステナブル行動変容を喚起する5.0、と整理できる。

本書は、日本の代表的TOD事業者である東急グループメンバーを中心にまとめられた「まちづくり」のバイブルで、歴史をふり返りながら多くのデータや考察から15の提言をまとめている。

② 量子超越 (ミチオ・カク著 NHK出版)

最近ではスーパーコンピュータを凌駕しているとされる量子コンピュータ。そもそも量子とは何なのか。その謎を解き明かしてくれるの物理学者ミチオ・カクの著書『量子超越』。量子コンピュータのそもそもの仕組みや、どういう理屈と発想のもと生まれたのかという歴史の話から始まり、「世の中で騒がれている量子コンピュータが実用化された場合に、社会にどのようなインパクトをもたらすか？」という部分に重点が置かれている。これを読んでも量子のことが理解できたという実感が湧かないのは、自分の能力不足である。

プラットフォーム通信では、メンバーの皆様の投稿をお待ちしています。

連絡先：未来構想 PF 事務局 大口

電話：03-4334-8157 メール：info@miraikoso.or.jp

〒100-6005 東京都千代田区霞が関 3-2-5 霞が関ビル 5F-28



私のインフラ巡礼



「泰緬(たいめん)鉄道博物館 (ミャンマー：タンビュザヤ)」



泰緬鉄道博物館



記念碑



タンビュザヤの日本人墓地

泰緬鉄道は、第2次世界大戦中に旧日本陸軍によって建設された、タイと当時のビルマ(現ミャンマー)を結ぶ鉄道で、タイ側は映画「戦場にかける橋」のクワイ川鉄橋が有名です。ミャンマー側では、ミャンマー第3の都市「モラミヤイン」から南へ約60kmのところに、「タンビュザヤ」という街があり、2016年に、この地で泰緬鉄道博物館が開館しました。当時の過酷な条件下での鉄道建設は、Death Railway (死の鉄道)と呼ばれ、その頃の状況がパネル展示されています。現在、紛争地域の近くとなっているため、この地区を訪れることが難しいですが、3月に発生したミャンマー大地震後の復興がひと段落し、政治状況が落ち着いたら、近くの日本人墓地とともに訪れて欲しい場所です。(日本コンサルタンツ(株) 松尾 伸之さん)

編集後記

4月13日に大阪・関西万博が開幕しました。開幕前から来場者数が心配されましたが、いざ開幕してみれば、今月11日までに一般来場者数は約250万人と好調なようです。最近の晴れた日は、絶好の外出日和です。少し遠出して万博に行かれるのも良いと思いますが、近くの観光スポットを巡るのも気持ちが良いものです(バラ園などお勧めです！)。(S.Y)